



新村の人口・世帯数	令和5年3月1日現在
世帯数	1,314戸
男女	1,513人
合計	1,618人
	3,131人

新村地区住民と「こんだん会」市長の



地域の元気な声を市長に

2月17日市長と住民の「こんだん会」が参加総数30名で開催されました。

この会は、「地域で活動する市民活動団体等の取組みや今後の展望など、地域の元気な声を市長が聴き、地域の課題解決のため、市ができる支援の参考とさせていただきます」というものです。

新村地区のテーマは「地域防災をどう進めるか」で、市内でも初の取組みである新村地区防災計画の策定や、先進的な取組みである松本大学との地域連携によ

る保育園の地域合同避難訓練の取組み事例を発表していただき、それを話題に臥雲市長と懇談をしていただきました。今回は、意見交換で臥雲市長から発言のあったものを中心に取り上げます。

新村の「ささえ愛カード」のより良い活用についての発言に対し、市長は

「新村地区の取組みは市内でも進んでいると思うので、他地区にも情報として伝えて欲しい。」とエールが送られました。

また、防災の活動を身内だけで終わらせないために、例えば市のホームページでPRして貰うなどの広報活動が必要だと感じているという意見に対しては、

「市でもホームページやLINEなどのインターネットの通信手段を使って、情報発信を積極的にしようとしているが、新村地区の取組みを含め、もっと防災に関して全市民に向けて発信をしていく必要があると感じた。」と発言がありました。

新村地区でも、従来のような運動会の開催が困難な状況

で、来年度から防災運動会のような形に内容を変えていこうと話合いが進んでいるとの意見に対しては、

「これまでの運動会のような本格的なものが出来ないということでも、例えば、松本大学と一緒に企画して貰い、訓練の実利と運動会の楽しさがミックスしたものを作ってもよいかと思う。新村地区の最大の地域資産は松本大学である。」と発言がありました。

最後に市長から、「松本大学があるという点は新村地区の強みでありチャンスだと思う。これから何か新しいものを生み出していくときに、住民と若い世代が良い意味で融合していければ、うまく共生していくのではないかと思う。ぜひ防災というテーマでは松本市を牽引していただくような取組んで貰いたい。」と期待を込めた発言がありました。

今回の意見交換会は、市長と間近でお話ができる貴重な機会であると同時に、改めて自助・共助を中心とした地区防災の重要性や松本大学との地域連携の重要性を再認識する機会となりました。

八束穂

新村地区ではカーネーションや洋ラン類の花き栽培が盛んである▼色の三原色(マゼンタ(赤)、シアン(青)、イエロー(黄))のうち二つの色の花はあ

るが、三つ目の色はないという。アスターには赤と青はあるが、黄色は決してない。キクには赤と黄はあるが青はない。バラやユリ、カーネーションも自然界に青はない。遺伝子組み換えの技術により、青色のカーネーション(品種名・ムーンダスト)が作られている▼カーネーションの花言葉は色によって違う。赤色は「母への愛」「母の愛」「感動」。白色は「純粹な愛」「尊敬」。黄色は「嫉妬」「軽蔑」。ムーンダストの花言葉は「永遠の幸福」▼物を見る時、何色の光を反射しているかによってその物の色が決まる。「赤い花」は「赤」の光だけを反射するので赤く見えている▼植物学博士の牧野富太郎の著書には、植物に愛着のある人、植物に興味を持つ人は「三徳」がある。第一に人間の本性が良くなる。第二に健康になる。第三に人生の寂寞を感じない。周囲に花があると永遠の恋人としてやさしく微笑みかけてくれる。

おでかけウォーク キング 市内35地区達成!

ものぐさ大学「おでかけウォークキング」が1月実施の安原・城東地区を最後に全地区完歩し終了しました。市内でも行ったことがない地区に行きたいということ、年5地区ほどのウォークキングを計画し、地域の史跡などを巡り自然や歴史に親しむことにしました。平成27年11月波田地区からスタート、足かけ7年かけ終了。多くの方が参加して、楽しくウォークキングし松本市の広さと自



撮影(右)青柳さん、記念(左)阿部さん、手記(左)阿部さん、修了証(右)阿部さん

然の豊かさを実感でき、文化財にもふれました。35地区を達成した「阿部みさ子さん」と「青柳久代さん」にもものぐさ大学から修了証書を授与しました。お二人からは、「庭先の花壇や家並みが綺麗だった」「アルウィンの貴賓席に座って球場を見られたことは嬉しかった」と思いを語られていました。

波田真光寺遺跡古墳めぐり 荒田の郷の用水は梓川から

2月25日歴史講座が開かれました。講師は波田歴史愛好会会長で波田地区在住の百瀬光信氏。令和3、4年に古墳が1基ずつ発見された真光寺遺跡発掘調査をふまえての講演でした。

真光寺遺跡古墳も安塚・秋葉原古墳群と同じ7世紀後半から8世紀に築造。大化の薄葬令(646年)以後もこの地域では円形横穴式石室の古墳がつくられていた。地域の水の取り口を最初に抑え、



百瀬氏の考察に耳を傾ける

開発に携わった人の墓と思われる。仁和4年(888年)梓川の氾濫により新村条里水田、安塚・秋葉原古墳群の盛土も流されたと推測される。新村堰が最初に梓川の大井口(水神沖、下島橋付近)から水を引き、栗林堰和田堰・神林堰を含め、堰によって開かれた地域が大井郷(その前身が荒田郷)に比定される。

講演会の最後には、大正時代に上高地線を開通させ、新村小学校跡地に松商学園短期大学、松本大学を誘致し、新村地区の人々の地域おこしのパワーは素晴らしいと結んでいました。

茶房ひといきで 至福の時間

2月13日に、松本大学地域づくり考房「ゆめ」、茶房ひといきプロジェクトが開催されました。今回は、参加者46名(学生17名、地域住民25名、教職員4名)でした。プロジェクトに加入していない学生も多数参加したため、非常に賑やかな回となりました。工作や踊り、上高地線の歴史についての紙芝居などの企画が用意されて、どれも好評を博しました。中でも恒例の踊りは、初めての学生も臆せず参加してくれました。地域の方から借りた着物を身にまとい、学生たちは楽しんでいました。非常に華があったため、見ている人たちにとっても和やかな時間でした。上高地線についての紙芝居は、新村地区の歴史の1つを学ぶ良い機会となり、学生も地域住民の方も目を輝かせていました。加えて、今回はコロナウイルスの制限が少しづつ緩和されたことで、コーヒーとロールケーキが提供され、学生も地域住民の方々も至福の時間を過ごすことができました。



上高地線の紙芝居を発表

みんなで恵方巻き作り

2月18日、新村地区の子ども5名と松本大学の学生7名で「寺子屋 節分」が新村公民館にて行われました。学習支援や恵方巻き作りを通して子ども達と学生との交流ができ、一人一人の思いを込めた恵方巻きが完成しました。完成した恵方巻きを食べながら、1日の活動を振り返って楽しく穏やかな時間を過ごしました。



思い思いに恵方巻を作る

ニユースポーツ体験会

2月5日、体協主催で芝沢体育館にて行いました。例年は冬季室内競技大会で町会対抗の綱引きと卓球でしたが、コロナ禍で2年中止となっていました。今回はスタイルを変えて、若男女が気軽に楽しめる、モルック、ボッチャをオープン参加で体験会にしました。小学生と園児、保護者、体協役員など約40名が楽しむことができました。



モルックを楽しむ参加者

ものぐさ大学・美術館巡り 中山晋平記念館・長野県立美術館

2月21日、参加者20名で北信の中山晋平記念館と長野県立美術館を訪ねました。中山晋平は明治20年に下高井郡(現中野市)で生まれました。童謡「てるてる坊主」や「シャボン玉」など、数々の名曲を作曲し世に送り出しました。本記念館は、彼の生誕100年を記念して昭和62年にオープンし、モダンな建物の正面にある壮大なカリヨンが晋平メロディーの狸囃子で迎えてくれます。学芸員の方のお話の後、オルガンの伴奏で「鬼のダンス」などを一緒に歌い、心なごむ時間を過ごすことができました。資料展示も充実しており、彼の偉業を改めて実感しました。時代を超えて多くの人々に愛された曲はこれからも歌いつがれていくと思います。



中山晋平の功績を楽しく解説いただく



令和4年度健康づくり推進委員の皆様から「足踏み式消毒器」を公民館にご寄贈いただきました。